生き残りを図る

～ 市工業振興会「産学官連携セミナー」 ～

大学側が産学連携の取り組みを発表

３月１日、市工業振興会（渡部幸悦会長）主催の「産学官連携セミナー」が開催されました。市内の会員企業のほか、経産省東北経産局、県立大、秋田大などが参加し情報が交換されました。

経産省の講話によると、国の中小企業関係予算は、震災・原発事故、エネルギー不安、円高、産業の空洞化などの対応として、例がない手厚い予算を計上しているとのこと。会員からは、新分野や海外進出、「人材育成のために大学の協力を得られないか」などと、危機感が感じられる具体的な質問が出されていました。

人々の心を救う、歌う尼さん

～ やなせななコンサート＆東日本大震災物故者追悼法要 ～

３月16日、「歌う尼さん」として活躍する「やなせなな」さんのコンサートが、禅林寺（院内）で行われました。追悼法要と同時開催。やなせさんは被災各地の寺社で支援コンサートを行っていて、その被災地の寺と禅林寺の住職同士に交友があって実現しました。

美しいメロディにやわらかな歌声。曲の合間の語りは穏やかな関西弁。生と死、命をやさしく包み込むステージに引き込まれ、目頭を押さえて、すすり泣く聴衆がたくさんいました。

歌で人々の心を救う、ありがたいコンサートでした。

やさしい歌声に心が洗われる

にかほ市は支援を継続します

～ 東日本大震災避難者情報交換会 ～

情報を交換し、思いを分かち合う

東日本大震災から１年が過ぎて、３月18日、本市への避難者を対象にした情報交換会が、スマイルで行われました。同日現在で本市への避難者は、福島・宮城両県から16世帯40人で、内10人が参加。

福島県の職員によると、同県では約15万人が県内外で（46都道府県すべてに）避難生活を送っているとのこと。本市では食料や商品券、入浴券などの支援を行っていますが、住み慣れた土地を離れた生活は、苦労がしのばれます。避難者たちは、互いの思いや状況を語り合い、夕食を兼ねた懇親会まで交流を深めていました。

人の良さを探す心の姿勢が大事

～ 家庭と職場を変える魔法のほめ言葉 ～

それぞれの体験から、良いところを引き出す

３月14日、仁賀保公民館で家庭と職場を変える魔法のほめ言葉講座が行われ、３回シリーズの最後の講座に市内外から12名が参加しました。

講座は、インタビューやグループワークを通じて、講師と参加者が会話しながら進行。１回、２回目の学習の成果を発表したり、６人のグループに別れ、実体験を『振り返り』『共感し』参加者の『良さを引き出す』作業を行いました。講師の佐藤智幸さんは「ほめることは相手に輝きを与える行為。ほめるためには人の良さを探す心の姿勢が大事」と語りました。

たたけば音が出るよ♪

～ 仁賀保太鼓伝承会コンサート ～

３月20日、仁賀保勤労青少年ホームで仁賀保太鼓伝承会による『太鼓の響きを春風にのせて』と題された和太鼓コンサートが開催されました。

今年の冬から始めた子どもからベテラン会員までが、合計７曲を披露。春をイメージした選曲や勇壮な演奏で、来場者を楽しませました。コンサート中盤には、太鼓を体験できる「ふれあい太鼓」も行われ、普段バチを手にしたことがない人も壇上へ。ベテラン会員から「たたけば音が出るよ！」とアドバイスを受け、和太鼓特有の勇ましい音を会場に響かせていました。

今冬から始めたメンバーも。にかほこども太鼓

全国少年柔道大会秋田県予選会

▼団体戦
【優　勝】小友唯心塾・板本優大（平沢小３年）

にかほ市民ペタンク大会

【優　勝】大竹Eチーム（鈴木幸春、須藤久之、今野ミヨ子）

にかほ市囲碁同好会設立記念大会

【優　勝】佐藤義之（琴浦）
【準優勝】齋藤　進（平沢）
【第３位】三浦幹雄（平沢）

寄付・寄贈

●ＪＡ秋田しんせいから民俗文化財の保存・伝承のために

目録を手渡す小川順治副組合長（右）

ＪＡ秋田しんせいの地域貢献活動の一環として、２５４、６００円が寄付されました。（同団体の「鳥海山伝承芸能応援定期」の取扱総額の０・００５％）

市内民俗文化財の保存・伝承のために活用されます。